平成２９年度　学校評価自己評価表　（最終）

1　学校教育目標　『夢に向かいチャレンジする津田小の子　』　～自ら考え行動する子・自他を大切にする子・元気にチャレンジする子～

2　ミッション　「夢に向かい諦めずに夢を育む児童の育成」をするために知・徳・体のバランスのとれた児童を育成する

ビジョン　児童・教職員・保護者・地域が共に誇れる学校をめざす

廿日市市立津田小学校

評価計画								取組の方策	必要なアンケートの項目 チェックする時期と担当者など	自己評価 中間評価			自己評価 最終評価			学校関係者コメント
	中期経営目標	短期経営目標	評価項目		担当	評価指標（目標値）		評価	具体的に、取組指標も入れる		評価	根拠	改善方策	評価	根拠	改善方策	
確かな学力（知）	・基礎，基本の力を身に付け，自ら学び，考え，表現する「確かな学力」を育む	◎基礎的・基本的な知識，技能の定着	1－1	・児童に確かな学力をつけている。	教務部	【市共通項目】 ・６年生「全国学力調査」Ｂ問題で平均通過率６０％以上の児童の割合	70%以上	4	①　チャレンジタイムで基本的な内容を定着させる。 ・視写に取り組み書く力をつける。 ・各学年の目標を決める。「丁寧に素早く集中して」 ・１週間同じ内容を視写し、伸びを実感させる。 ・音声計算に取り組み、基礎的な計算力を高める。 ②　授業づくり ・単元全体を見通した授業づくりをする。 ・既習事項を活かして次の課題を解決する授業の流れを作る。 ・授業の見通しを持って時間配分を守り，遠心問題を行い「わかった」「できた」と実感させる。 ・最終的に自力解決のできる子どもを育てる。	「全国学力テスト」調査結果（４月）	1	「全国学力テスト」調査結果について 国語平均正答率60%以上の児童の割合55% 算数平均正答率60%以上の児童の割合22% 平均して38.5%であり，評価は1である。	（全国学力テスト・「基礎・基本」定着状況調査結果） ・　2学期以降もチャレンジタイムや家庭学習で基本的な内容の定着を図るように全学年で実施する。 ・国語では，いろいろな文章や資料に触れる活動や，課題に合わせた記述・読写活動を取り入れ，模倣をもって自分の考えを書く学習に取り組ませる。算数では，必要なことを絵や図で示したり，言葉で表したりする活動を仕組み，問題を正しく読み取る力を育成する。また，グラフから数値を読み取って考えたり，いろいろなグラフを組み合わせて考えたりすることができるような練習問題に取り組ませる。理科においては，実験の考察を自分の言葉で端的に表現するなど授業内容を自分のことばでまとめる活動を積極的に取り入れる。 （４年生算数の標準学力テスト） ・　チェック実施は３学期となるが，学力向上に向けて上記の取組を全学年で実施する。	1	「全国学力テスト」調査結果について 国語平均正答率60%以上の児童の割合55% 算数平均正答率60%以上の児童の割合22% 平均して38.5%であり，評価は1である。	・今年度は，国語科において，目的や必要に応じて情報を取り出し，それらを関連付けて書くことに課題があったため，模倣をもって自分の考えを書く学習の取組を行ってきた。また，算数科や理科においては，問題を読み取る力や表現する力に課題があったため，ペアやグループで話し合い，自分の言葉で説明する学習の取組を継続して行ってきた。その結果，２学期の単元末テスト「数学的な考え方」や国語科の「模倣をもって自分の考えを書く」検証問題では，目標値を超える結果が得られた。しかし，算数科や理科においては，模倣を自分の言葉で説明する検証問題では，目標値に及ばない結果となったものもあった。思考力・表現力の向上を図るためにも，継続して指導を進めて行きたい。 ・来年度も，「考え，熟考できる」主体的な学びをめざした授業改善に取り組みたい。また，基礎・基本の定着，各学力検査での通過率が60%以上の児童の割合を今年度より上げるために，「分かった」「できた」と児童が自ら進んで学習していけるよう，チャレンジタイムや家庭学習のより適切な活用を図りながら，基本的な学習内容の定着を図っていく。	・基礎基本の定着により学力の向上への取組の継続を進めて頂きたい。 ・研修公開でも積極的な学習態度が感じられた。 ・工夫して授業を進めておられる先生方の努力はすばらしいと思います。努力されているだけに評価1，2は残念です。 確かな学力を付けれ中学校に進めるよう子ども達を応援しています。
						・５年生「基礎・基本」定着状況調査平均通過率６０％以上の児童の割合	70%以上	4		「基礎・基本」定着状況調査結果（６月）	4	「基礎・基本」定着状況調査結果について 国語平均通過率60%以上の児童の割合59% 算数平均通過率60%以上の児童の割合81．8% 理科平均通過率60%以上の児童の割合68．2% 平均して70%であり，評価は4である。		4	「基礎・基本」定着状況調査結果について 国語平均通過率60%以上の児童の割合59% 算数平均通過率60%以上の児童の割合81．8% 理科平均通過率60%以上の児童の割合68．2% 平均して70%であり，評価は4である。		
							63~69%	3									
							55~62%	2									
							55%未満	1									
						・４年生算数の標準学力テストの基礎の通過率（全国平均を上回る児童の割合）	80%以上	4		標準学力テスト　結果　（３月）		実施は3学期		2	4年生算数の標準学力テストの結果について 算数基礎の通過率（全国平均を上回る児童の割合）62%であり，評価は2である。		
							70~79%	3									
							60~69%	2									
							60%未満	1									
豊かな心（徳）	・生命を大切にし思いやりを持って行動できる「豊かな心」を育む	◎積極的な生徒指導を推進し，いじめのない学校をめざす。 ★自他の良さを認め合う，自己有用感の育成	2－1	・命を大切にし，自他を認めいじめを許さない，いじめをしない学校・学級集団になっている。	生徒指導部	・児童の肯定的評価（級友関係，規範意識関係，自己存在感関係項目）	90%以上	4	・帰りの会で全学年，週に３回は「いいことみつけ」を行い「今週の１枚」を放送・掲示する。学級全員が認められる機会を持てるように，席替え後に「ありがとうメッセージ」を贈るなど学級実態に合わせた取組をする。 ・アセスによる学級全体と個人の傾向を把握し，取組に役立てる。 ・面談週間をとることで，一人一人の児童と丁寧に話をしたり聞いたりする時間をもつ。	児童アンケート（７月，１２月） 「学校に友だちがいる」 「学級のみんなから認められている」 「津田小学校はいじめのない学校になっている」	3	児童アンケート（７月） 「学校に友だちがいる」98% 「学級のみんなから認められている」81% 「津田小学校はいじめのない学校になっている」88%	・「いいことみつけ」を継続するとともに，学級全体のものになるように日々の生活の中で指導者が率先して肯定的評価をしていく。 ・いじめのアンケートの実施と，個人面談を行うことにより，全児童の思いを細やかにつかむ取組を行う。	3	児童アンケート（２月） 「学校に友だちがいる」98% 「学級のみんなから認められている」84% 「津田小学校はいじめのない学校になっている」88%	・日々の帰りの会において「いいことみつけ」を実施していく。特別活動における話し合い活動やエンカウンター活動に取組む。指導者は肯定的評価を基盤に児童に指導する。 ・毎学期「いじめアンケート」やアセスを実施し，児童の思いや様子の把握に努める。児童委員会など，いじめをなくしていく児童の主体的な活動を設定する。	・「いいことみつけ」はいい取組である。 ・子ども達は落ち着いていると思う。 ・先生方の細かな対応には，いつも感心しています。小学生といえども，友達関係は複雑ですね。
健やかな体（体）	・活力ある生活の基盤となる体力や運動能力を養い，「健やかな体」を育む	◎健康に対する意識を高め，活力ある生活の基盤となる体力や運動能力を育む	3－1	・自ら進んで体力づくりに取り組み，運動能力が向上している。	健康安全部	・体力づくりの取組の達成目標の到達度。投力・握力における県平均以上の学級の割合（男女別）	8/12以上	4	・体育の時間にボールを投げる運動，ハンドグリップを使った運動や鉄棒やうんていを使ったサーキットを継続的に取り入れる。 ・外遊びを奨励し，日常生活の中で体力や運動能力を育むようにさせる。	・体力テスト（５月末）実施後，テスト結果を７月中旬までに集計・評価する。 ・課題のあった項目について再テスト週間を（２月末）を設定し，伸びを評価する。	3	体力テスト県平均（平成28年度） 以上の学級割合 握力：6／12 投力：6／12	握力・ハンドグリップを使った握力強化の運動を取り入れる。 投力：ボール投げのこつを教える機会を設ける。スカットボーイを休憩時間にも使用し，投げる機会を確保する。※２月末に再測定をして取組みの成果を見る。	3	体力テスト県平均（平成28年度） 以上の学級割合 ※3学期実施 握力：6／12 投力：8／12 立ち幅跳び：6／12	朝トレの時間に実施したハンドグリップを使った握力強化運動，スカットボーイを使用したよりよい投げ方の指導を継続していく。さらに，1分間に何回ハンドグリップを握ることができたか，体育館のステージからどれだけ離れた場所からスポンジボールをステージ上に投げ入れることができたかを数値化して記録し，それを体育の授業の中で実施することで，今現在の自分の握力・投力を明確に把握させ，記録向上に向け意欲的に取組むことができるようにしている。	・遊びの中での体力つくりはできないだろうか。 ・食育について，「感謝しながら・・・」は大切なことである。 ・元気な子ども達だと思う。 ・よい意味での「田舎っぽ」であってほしいと思います。「4」を目指しましょう。 ・歯への取組はとても新鮮です。乳幼児期から抱える佐伯地区の課題です。取組に期待します。
							6/12	3									
							4/12	2									
							2/12以下	1									
		○食育の実践を通して子どもの自立心を向上させる	3－2	・食育の取組を通して児童に向上的な変容の姿が見られる。		・食育ふりかえりカードと「弁当の日」に対する保護者アンケート・児童アンケートによる肯定的評価	80%以上	4	・各教科の時間を使い，ねらいをはっきりさせた食育を推進していくことで児童の食への関心を高める。 （例） ○好き嫌いなくなんでも食べれる。 ○給食の残菜を減らす。 ○未提のパンを考えて調理の計画を立てたり，食事をしたりすることができる。 ○見通しを持って調理する。 ○家族とのふれあいや感謝する気持ちを育てる。 ・「お弁当」交流の場や，肯定的評価の場，家族との振り返りの場を設け，内容を紹介していく。	・弁当の日の後，児童用の振り返りカードから評価する。（２，３学期） ・弁当の日の後，取組に対するアンケートを保護者対象に行う。（２，３学期）		弁当の日の実施日 ２学期　11月13日（月） ３学期　1月22日（月）	弁当の日実施後のアンケートの結果を受けて検討する。	4	・食育ふりかえりカードと「弁当の日」に対する保護者アンケート・児童アンケートによる肯定的評価 児童：86% 保護者：85%	弁当の日に収穫むことにより，目的である食について家族でともに考える機会を作る，食への関心を高め家族や食に関わる人々への感謝の心を育む，料理に関して「できる」感情及び自立心を育むことについては，弁当の日の児童の様子やアンケートの結果から概ね達成することができたと考えられる。そこで来年度からは現在本校で「健やかな体を育む」中で１番の課題である「歯科保健」についての取り組みをしていく。	
信頼される学校	・保護者・地域と連携し，信頼され，開かれた学校づくりを推進する	○地域文化の伝承や歌声等の学校文化を創造し，発信する。	4－1	・学校支援地域本部の力をいただき，地域と共にあゆむ授業を展開しようとしている。	学校評価委員会	・各学年の学校支援地域本部に支援をいただき，地域の力を活用した授業後の児童アンケートによる肯定的評価の割合	80%以上	4	・地域の方々の支援調整会議を毎月開催する。 ・地域の方々にお礼の手紙等，感謝の気持ちを表す。	児童アンケート 「地域の人に教えていただいたり，一緒に活動したりするのは楽しいですか。」 『津田のことについて，「もっと知りたい」，「調べてみたい」と思うことがありますか。』（３年生以上）	4	「地域の人に教えていただいたり，一緒に活動したりすることは楽しいですか。」 肯定的評価　97%（１学期支援のべ回数99回，支援者数284名） 『津田のことについて，「もっと知りたい」，「調べてみたい」と思うことがありますか。』 肯定的評価　87%	・２学期以降も支援調整会議と連携を図りながら，授業支援等での児童との関わり合いを通して，児童の自己有用感を高める取組を継続して行っていく。 また，地域の方々との関わり，学ぶことで，ふるさと「津田・浅原」に対する関心を高めていく。	4	「地域の人に教えていただいたり，一緒に活動したりすることは楽しいですか。」 肯定的評価　94%（１月末支援回数延べ162回，支援者数延べ559名） 『津田のことについて，「もっと知りたい」，「調べてみたい」と思うことがありますか。』 肯定的評価　80%	・次年度も地域支援コーディネータと連携を密にし，地域の方と一緒に活動することで楽しさだけでなく，地域の一員であるという実感を持たせていく。 ・総合的な学習の時間の指導計画等の改善を図ることにより児童個々が課題意識を持ち主体的に活動に取り組めるような授業づくりを行う。	・地域連携は是非とも進めてほしい。 ・先生方の熱心さが，地域にもしっかりと感じられています。 ・「知りたい，調べたい」と子ども達に思ってもらえる地域であるよう大人の努力も必要だと思います。
小中連携	・将来への夢や希望を持たせ，基礎的基本的な学力と基本的生活習慣の向上を図り児童の自己肯定感・自己有用感を高める ・自信と誇りを持った児童	◎家庭学習に自ら取り組む児童の育成	1－2	・児童が自ら進んで家庭学習に取り組む姿勢が身についている。	教務部会	・家庭学習の時間調査結果（各学年の設定目標時間のアンケート結果）	85%以上	4	・家庭学習ステップアップ週間を学期に１回実施し，家庭での過ごし方を意識させ，保護者にも協力を得る。 ・家庭学習ステップアップ週間カードで，学習時間，自主学習の伸びを見取り，振り返りをさせる。 ・「自学のすすめ」をもとに学習の仕方を指導し，自分で取り組む課題を週１回以上行わせる。（家庭学習の質をあげる） ・普段から，わからないまま空白で終わらせない指導をする。（必ず解答する，自分で調べるなど）	児童アンケート（７月，１２月） 「学校がある日に，家でも学年の目標時間以上勉強していますか。」 保護者アンケート 「子どもは学校があった日，家でも学年の目標時間以上勉強していますか。」	3	児童アンケート7月 「学校がある日に，家でも学年の目標時間以上勉強していますか」 肯定的評価91% 保護者アンケート7月 「子どもは学校があった日，家でも学年の目標時間以上勉強していますか。」 肯定的評価72% 平均して81．5%であり，評価は3である。	・２学期以降も家庭と連携を図りながら取組を進めていく。 ・家庭での過ごし方・家庭学習の大切さについて，ステップアップ週間だけではなく，通信や学級懇談会等を利用し話し合うことで，児童・保護者の意識を高めていく。 ・全学年において，家庭での自学の学習に取り組んでいく。	2	児童アンケート12月 「学校がある日に，家でも学年の目標時間以上勉強していますか」 肯定的評価89% 保護者アンケート12月 「子どもは学校があった日，家でも学年の目標時間以上勉強していますか。」 肯定的評価68% 平均して78.5%であり，評価は2である。	・来年度も家庭と連携を図りながら取組を進めていく。 ・家庭での過ごし方・家庭学習の大切さについて，ステップアップ週間だけではなく，通信や学級懇談会等を利用し話し合うことで，児童・保護者の意識を高めていく。 ・全学年において，家庭学習の質や量の向上を図り，取り組ませていく。また，家庭での自学学習にも取り組み，ドリル的学習だけでなく課題発見・解決型の家庭学習を模索していく。	・小中，連携しての取組は，すばらしいと思います。
		○マナーや規範意識の育成	2－2	・「さいきっ子ノート」にあるマナーや規範意識を守ろうとしている。学習規律の徹底。	生徒指導部会	・児童の肯定的評価（「さいきっ子ノート」に書いてあることを守ろうとしている。） ・保護者と児童の肯定的評価（挨拶関係項目）	90%以上	4	・「さいきっ子ノート」を活用した共通指導と実態交流。 ・学期末に学校の決まりが守れているか自分を振り返させる。 ・「あいさつ運動」の取組を継続して行う。 ・毎日縦割り班掃除にすることで掃除の仕方がより徹底するようにする。高学年にリーダー としての自覚をもたせる。 ・自問清掃が徹底するように自問タイムを設け，確実に行わせる。 ・「掃除反省カード」を使って振り返りを行う。 （チエック項目７のうち１つをリーダーが選んで班員に伝える。１つずつ確実に項目がクリアするようにする。）	児童アンケート（７月，１２月） 「出会った人に大きな声で挨拶をしている。」 保護者アンケート 「津田小学校の子どもは出会った人に元気よく挨拶をしている。」 児童アンケート 「掃除を時間いっぱいていねいにやっている。」 保護者アンケート 「津田小学校は掃除の行き届いた学校になっている。」 児童アンケート 「学習規律が徹底している。」	3	児童アンケート（７月，１２月） 「出会った人に大きな声で挨拶をしている。」95% 保護者アンケート 「津田小学校の子どもは出会った人に元気よく挨拶をしている。」73% 児童アンケート 「掃除を時間いっぱいていねいにやっている。」100% 保護者アンケート 「津田小学校は掃除の行き届いた学校になっている。」86% 児童アンケート 「学習規律が徹底している。」98%	・「あいさつ運動」を継続するとともに，児童の意識を高めるために，児童委員会を中心に児童活動としてさらに取組を進める。 ・そうじへの児童の意識を高めるために「すいすいすみずみそうじデー」を週に一度設定する。	4	児童アンケート（２月） 「出会った人に大きな声で挨拶をしている。」94% 保護者アンケート 「津田小学校の子どもは出会った人に元気よく挨拶をしている。」81% 児童アンケート 「掃除を時間いっぱいていねいにやっている。」99% 保護者アンケート 「津田小学校は掃除の行き届いた学校になっている。」88% 児童アンケート 「学習規律が徹底している。」98%	・学級や児童委員会による「あいさつ運動」など，児童自身のあいさつの習慣や意欲を高める活動を設定し取組む。 ・自問清掃など「おそうじマスター」の定着を目指し，たてわり班による児童の主体的なそうじ活動を設定し取組む。 ・「さいきっ子ノート」をもとに教職員が意識統一し，児童の生活規律，学習規律の定着に取組む。	
							80%以上	4									
							80~89%	3									
							70~79%	2									
							70%未満	1									

◎重点項目　★小中学校共通項目